

7/28 第1回 埼玉県との 定期協議
2026年度埼玉県予算編成ならびに 行政執行に関する要望書を提出



埼玉県消費生活課築地良和課長(左)と吉川尚彦会長理事

第1回定期協議では、埼玉県から2024年度生協指導検査実施状況の要点および2025年度の対象生協について報告がありました。生協連からは埼玉県への要望を提出し、生協連および会員生協の取り組みについて報告しました。

9/7 九都県市合同防災訓練 防災フェア
防災クイズに多くの方に参加いただきました



防災クイズは大盛況でした

コープみらいは〇×防災クイズを実施

第46回九都県市合同防災訓練(埼玉県会場)が幸手市権現堂公園で行われ、消防、警察、自衛隊、九都県市、防災関係機関、医療機関、災害時応援協定締結事業者、自主防災組織などが連携して、訓練を行いました。埼玉県と埼玉県生協連、埼玉県とコープみらいが締結している「基本協定」「物資協定」にもとづき、訓練に参加、今回で25回目の参加となりました。埼玉県生協連は救援物資配布訓練とコープみらいとともに防災クイズを実施、多くの方に参加いただきました。

7/4 埼玉県委託事業 県内消費者団体研修・交流会

長野県での消費者行政懇談会について学びました

埼玉会館で、消費者および消費者行政8人、社会福祉協議会1人、地域包括支援センター15人など、80人が参加して、学習・交流しました。長野県消費者団体連絡協議会の中谷隆秀さんに、長野県での安心して暮らし続けられる地域づくりのための取り組みで、長野県と連携して開催されている消費者行政懇談会についてお話しいただき、後半は「オレオレ詐欺」をテーマにグループで交流しました。第2部は、団体活動交流を行い、12消費者団体33人が6グループに分かれて活動交流しました。



ワークショップ体験では「投資詐欺」などの替え歌を大合唱

9/12 第61回埼玉県 消費者大会 プレ学習会

「米不足はなぜ起きたのか」 県内大規模農業者に講演いただきました



お米のこと、農業のこと、多岐にわたってお話しいただきました



講師の中森剛志さん



こちらから 視聴いただけます

埼玉会館で、会場52人、Zoom56人、計108人の参加で開催、中森農産株式会社(加須市)代表取締役の中森剛志さんを講師に、農業、米不足について、幅広い視点で講演いただきました。食料安全保障にエネルギー安全保障は不可欠であるとも話されました。

9/19 埼玉県委託事業 高齢者の消費者被害 防止フォーラム

地域の見守りに関わる 多様な連携強化を目的に開催



埼玉会館およびZoomによるオンラインで開催

で弁護士の村千鶴子さんによる講義、埼玉消費者被害をなくす会理事長の池本誠司さんによる講義ののち、吉川市、伊奈町における多様な連携事例の報告、グループ交流を行い、今後の連携につながる機会となりました。

県内自治体の消費部門・福祉部門の担当者、地域包括支援センター、民生児童委員などが114人参加しました。東京経済大学名誉教授

SAITAMA
2025 秋号
No.95
(2025年10月発行)

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

写真ニュース



埼玉県マスコット「コバトン」



被爆・戦後80年
平和とよりよい生活のために



9/13 県連ピースフォーラム
ピースアクションの参加者が集まり、報告・交流しました



各自の体験を共有し、平和について「自分ができること、やりたいこと」を書き出しました



埼玉会館(さいたま市浦和区)にて、ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキの参加者など4生協と生協連46人が集まり、戦争体験や被爆者の体験の次世代への継承や生協の平和の活動の共有を考えることを目的に、平和行動参加者からの報告やグループでの交流を行い、日々のくらしや活動の中で何ができるのか話し合いました。参加者からは、「平和の旅に参加したお子さんたちが戦争の怖さや悲しさを伝えていきたいと自分のことばで報告してくれたことに胸が熱くなった」などの声が寄せられました。

7/20 第40回埼玉県原爆死没者慰霊式 被爆者やご遺族など 約300人が参列されました



しらすぎ会三松保則会長による慰霊のこぼ



高校生らによる平和の誓い



日本被爆協が受賞したノーベル平和賞のメダルと表彰状のレプリカが展示

浦和コミュニティセンター(さいたま市浦和区)で開催、埼玉県原爆被害者協議会(しらすぎ会)とともに埼玉平和市民5団体懇談会が呼びかけた実行委員会が準備、運営にあたりました。式典では、県内在住で昨年亡くなられた102人を含む2166人の死没者名簿を大野元裕埼玉県知事が奉納し、黙とうを捧げました。しらすぎ会三松保則会長からの「慰霊のこぼ」、高校生らによる平和の誓い、被爆者の証言の朗読、献花、折り鶴奉納、「原爆を許すまじ」を斉唱し、終了しました。

7/20 被爆80年記念行事 被爆の記憶、記録の継承について考えました



埼玉合唱団による平和のうたごえ



対談の記録はこちら

埼玉県原爆死没者慰霊式の午後からは、埼玉県原爆被害者協議会主催「被爆80年記念行事」が行われ、約130人が参加しました。埼玉合唱団による平和のうたごえ、被爆者の記憶・記録の継承をテーマにした座談会、映画「長崎の郵便配達」の上映の3部構成で行われました。座談会は、原爆裁判にも関わった弁護士の久保賢一さん、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の工藤雅子さん、ご自身が演じた役をきっかけに、被爆者の抱えている問題に寄り添ってきた俳優の斉藤とも子さんによって行われ、被爆者が訴え続けてきたことや、記録・資料を継承するために必要なことについて考えました。



左から久保賢一さん、工藤雅子さん、斉藤とも子さん



国際協同組合同年

協同組合はよりよい世界を築きます



写真ニュース
バックナンバーは
こちら

co-op 埼玉県生活協同組合連合会



埼玉県生協連
ホームページは
こちら



生活協同組合コープみらい

「子ども平和新聞プロジェクト」を開催



平和新聞づくり



殉職教職員之碑巡り

7月29日(火)に被爆・戦後80年の節目の企画として、包括連携協定を結んでいるさいたま市と共催で『子ども平和新聞プロジェクト』を開催し、小学5年生から中学2年生17人が参加しました。次世代への平和継承を目的として、埼玉新聞社と埼玉県立松山高等学校新聞部の協力も得ながら、新聞づくりを行いました。埼玉県原爆被害者協議会や平和について活動している地域クラブの平和くらぶ連絡会にも協力いただき、被爆の実相や戦跡巡りなど、多角的な視点で平和について学びました。

医療生協さいたま生活協同組合

被爆・戦後80年 平和な未来に向けて!



原水爆禁止世界大会・広島大会参加者



子ども食堂「こみてkitchen」で紙芝居



今年の原水爆禁止世界大会は、広島と長崎に代表者を派遣。組合員・職員あわせて46人が、核兵器の非人道性を訴える国際的な議論と市民の交流の場に参加しました。また、各地域では、被爆者の体験談やパネル展を通じて、平和について考える企画を開催しました。子ども食堂「こみてkitchen」(川口診療所)では、1歳から80代までの幅広い参加者で紙芝居『かわいそうなぞう』をみて、長崎血うどんとすいとんを味わいました。すいとんを初めて食べる人も多く、紙芝居には親子そろって引き込まれていました。

生活協同組合パルシステム埼玉

『2025ピースアクション in ヒロシマ』に参加



平和のバトンを次世代につなぐ取り組みを続けます

8月4日(月)～5日(火)、被爆・戦後80年の節目にあたり、「ピースアクション in ヒロシマ」に参加するため、組合員と役員計19人が広島を訪れました。平和記念資料館での展示見学、被爆者による「被爆の証言」の聴講や平和記念公園内の碑めぐり、映画「おかあさんの被爆ピアノ」鑑賞などを通じて被爆の実相と平和の尊さを学びました。また、被爆ピアノの実物見学、「おりづるタワー」での体験など、参加者それぞれが思い思いに平和への理解を深める機会となりました。



十文字学園生活協同組合

今年もPeaceNow!に参加し 体験・学習してきました!



フィールドワークした旧海軍司令部豪



沖縄戦の全戦没者約24万人の氏名が刻まれている平和の礎

十文字学園生協では、大学生協連が開催している平和企画PeaceNow!に参加しています。今年も9月2日～4日に開催された大学生協連のPeaceNow!Okinawa2025に学生委員2名が参加しました。沖縄平和祈念資料館、アプチラガマ、旧海軍司令部豪などのフィールドワークや沖縄戦体験者の証言をお聞きしました。10月の桐華祭(学園祭)では生協学生委員会で平和展を開催しますが、PeaceNow!Okinawaの参加報告も行う予定です。

生活クラブ生活協同組合

生活クラブでんき10周年の 2万人キャンペーン& 「再エネ・省エネフェア」を開催しました



2重サッシの温度や自転車発電を体験



でんきの切り替えや料金シミュレーションを案内

供給を始めて今年10周年の生活クラブでんきをアピールするイベント「再エネ・省エネフェア」を、7/27(日)〈志木〉と8/24(日)〈北本〉で開催しました。一人ひとりができる温暖化対策の一つとして、再エネ比率の高いでんきに切り替えてもらえるように小平や飯館の再エネ発電生産者や、環境活動各ブースや団体が出展し、再エネ発電や省エネ・断熱の工夫や原発の危険性などをミニ講座で紹介しました。2日間で22件のでんき契約につながりました。

生活協同組合・さいたま高齢協

認知症カフェ 『オレンジカフェ』 オープン



オレンジカフェの入口(三郷市早稲田4-22-23)

認知症の人とその家族、地域住民のだれもが気軽に集い交流できる場所として、認知症カフェを2025年4月にオープンしました。これは三郷市の委託事業として、生協・さいたま高齢協が受託しています。店名は『オレンジカフェ』とし、おしゃれなコーヒーショップをイメージしました。ご自分でコーヒー豆を挽き、ドリップし本格的なコーヒーを楽しめます。利用料金は200円。飲み物・お菓子付き。毎月第4土曜日に13時30分～15時30分に営業します。

こくみん共済 coop 〈全労済〉

社会課題と連動した 寄贈の取り組みについて



感謝状を拝受した近藤本部長(右)

子どもたちを交通事故から守る「7才の交通安全プロジェクト」の一環として、マイカー共済の見積もり1件につき横断旗1本を全国の小学校等へ寄贈する活動を実施しています。あわせて、埼玉推進本部独自の社会貢献活動として、マイカー共済の新契約1件につき100円を交通遺児等へ寄付する取り組みを実施しています。2024年度は、2025年7月に埼玉県交通安全対策協議会交通遺児援護基金へ176,200円の寄附を行い、取り組みを開始した2016年度からの寄附額は累計1,612,300円となりました。

さいたま住宅生活協同組合

築60年の農家住宅を 大規模リノベーション



リノベーションした住宅(川越市)



7月27日、さいたま住宅生協では、築約60年の農家住宅を現代の生活に合わせて大規模にリノベーションした住宅の完成見学会を開催しました。断熱性能の向上や段差の解消によるバリアフリー化など、暮らしやすさを高める工夫が施されているだけでなく、天井を取り払って昔の屋根裏を活かした吹き抜け空間や、天井裏から見つかった昔ながらの建具を再生・活用するなど、古き良きものと現代の暮らしが融合した豊かな空間が広がっています。

埼玉県勤労者生活協同組合

持続可能で魅力ある 住環境の提供をめざして



賃貸住宅の建物及び入居者管理を委託している、積水ハウスによる最新の賃貸住宅技術と経営戦略を体感する見学会に参加しました。建替えるにあたり、今回の物件は単なる最新仕様ではなく、建物の長寿命化・資産価値の維持・入居者満足と同時に実現する高水準の賃貸住宅であると強く印象づけられました。限られた資源と財源の中で、組合員の皆様にとって持続可能で魅力ある住環境を提供し続けられるよう検討をすすめています。

